

豊橋市社会福祉審議会地域福祉専門分科会会議録

日時：令和8年2月26日（木） 10：00～11：35

場所：市役所西館4階 災害対策本部室

委員数：11人／12人

1. 開会

2. 議題1「第5期豊橋市地域福祉計画案」及び「市民意見提案制度（パブリックコメント）の意見」について

（事務局より資料について説明）

<委員>

- ・第5期豊橋市地域福祉計画（案）の、45ページ「地域人権啓発活動事業」について、外国籍の方の人権みたいなどころも少し加味していただくのがよい。
- ・豊橋からも外国籍のお子さんが少年院に入られるケースが増えており、外国籍というところで「生きにくさ」であったり、うまく馴染めずに犯罪にという話も少年院の院長先生から聞いた。豊橋は特に外国籍の家庭も多いため、そのような環境を整えていくことも必要だと思う。

<事務局>

- ・この事業に限らず、地域福祉の取り組みの中では、豊橋の場合、現在特に外国籍の方が約5%いらっしゃるため、当然、その方々も含めた地域福祉というもののあり方を考えて進めていかないといけないという課題感を持っている。今後の取り組みとして、ぜひその視点も忘れずに取り組んでいきたい。

<専門分科会長>

- ・この地域福祉計画の中には再犯防止推進計画も包含するため、そういうことも含めてご意見いただいた部分はできる限り趣旨を生かせるような形にしたい。

<委員>

- ・49ページ「障害者アートのための研究・ワークショップの開催」や、52ページ「福祉関連施設向けワークショップ事業」とあるが、学校や施設だけでなく、社会の中で、例えばそのアート作品の展示や、社会に向けた何か取り組みについて、しっかり取り組んでほしい。ぜひ、そんな事業も考えてほしい。

<委員>

- ・社会福祉協議会自体は、今までは困っている方々のサービスを重点にそれぞれ取り組んでいるが、これからは、元気な高齢者の方や障害者の方も、いろんな活躍の形があり、生活を保障するだけでなく、そういう方々が参加する、活躍するという方へ目を向けたいと思っているため、ぜひ連動して活動できればと思う。

<専門分科会長>

- ・生成 AI やデジタルを使うなど、地域福祉は文化や芸術とコラボしていく時代である。担当課だけでなく、社会福祉協議会などとも連動して、進めていけるようにしたい。そのあたりのところの記述もお願いしたい。

<事務局>

- ・パブリックコメントでも、その点をご提案いただき、市の考え方としても、今後、取り組みを進めていきたいと考えており、参考意見ということで受け止めさせていただくということで、回答の公開を考えている。

<委員>

- ・小中学校では、豊橋まつりのときに作品を販売するような体験をしている。また、近くの中学校の子が小学校を回って販売したりとかもあり、そういう取り組みがうまく接続していくといい社会になると思う。

<専門分科会長>

- ・多機関協働事業で、教育と一緒に、一つひとつの事業を協働して進められるようしていけば、体制がつくられていく。

<委員>

- ・パブリックコメント結果（案）の「番号4」についての市の考え方は大変結構なものである。老人クラブ連合会の最大の悩みが、クラブ数も会員数も減っていること。これからどうやって増やしていくか、最近、お年寄りも元気な人が増えてきているため、いろいろな種目など、もっと参加しやすいようなことを、長寿介護課とも十分話し合っ進めていきたい。

<事務局>

- ・今後増やしていくように考えているとは聞いており、来年度、ポッチャのトライアルをやることも聞いている。試験的などころも含めていろいろなものを少しずつ試しながら、広げていきたいということは市も考えている。

<委員>

- ・なじむまでに時間もかかるため、よく相談しながらやっていくようお願いしたい。

<委員>

- ・みんながみえるところで、元気な高齢者の方がやっているというものがあるとよい。せっかくアリーナができるため、シンボリックなものは、そこでもできるように調整したり、他市からも呼んだり、大きな大会をやるとかやっていただきたい。

<専門分科会長>

- ・現在、新たな取り組みとして、元アスリートの方がクラブ活動や学校の部活について専門的な立場から取り組んでおり、高齢者、老人クラブや民生委員児童委員と一緒にあって、地域での健康づくりの活動に取り組んでいる事例も結構出ている。
- ・老人クラブの参加が減ってきているということは健康づくりや孤独孤立などの側面からも、こういう活動が活発に地域で行われるようになることが大切だと思う。その辺も意識していきたい。

<委員>

- ・障害のある方のスポーツもやはりすごく重要だと思う。パラスポーツが、近年、大分周知されるようになってきた。しかし、特に障害がある方で、特別支援学校を卒業した後、今までは部活で余暇を楽しんでいたが、学校を卒業すると余暇をうまく過ごせないという方もいるため、そういった方たちも参加できるような取り組みも一緒に考えてもらえるとありがたい。

<専門分科会長>

- ・参考にさせていただきます。

<委員>

- ・豊橋市地域福祉計画（案）の変更点の、75ページの（2）多機関協働事業について、「多機関協働事業は一部を委託事業とする場合においても、市が主体的に担う業務として」と追加され、市がしっかり見ていただいてフォローするという体制を、皆さん期待していると思う。ぜひ、こういう気持ちを全てのいろいろなところで発揮していただけると、皆さんも心強く思われると思う。この点を明記したことは素晴らしいと思う。

<専門分科会長>

- ・ずっとこのようにやっていたが、改めてここに明記したので、皆さん安心して事業を進めたら良い。

<委員>

- ・パブリックコメントの「番号9」の「いきいきフェスタ」は、市と社会福祉協議会が共催という形だが、やはりこういう問題意識は同じように持っており、今のままの形はどうかとも思っている。豊橋市の回答としては「参考として」という形だが、社会福祉協議会の方でしっかり考えたいと思う。

<委員>

- ・市にも当然、担当課があるが、重層的なことをすべてのイベントへ考えていくと、高齢者のスポーツに障害者の方やこどもも入るなど市民みんなが参加できるような仕組みづくりについて、枠を作らず、縦割りではなく、全部に誰でも参加できるような形を進めてほしい。こどもたちだけが参加するのではなく、お年寄りの方がやっているスポーツに小学生が参加するとか、障害者の方も一緒にやるとか、そういった枠をなくすような方向に進めていって

ただければありがたい。

- ・対象を限っていないと広報したとしても、受け取る側も、「こういうものだから、私は関係ない」となってしまう。そうではなく、近くでやるので、「誰でも参加できますよ」、「誰でも見に行ってもいいですよ」というのを啓発していただくとありがたいです。

<専門分科会長>

- ・「地域共生社会の実現」は誰も取り残さないというのが趣旨ですので、皆さんと協働して進めていくところである。民生委員だけに役割がいかないように、みんなで協力できるような体制を組んでいきたい。

3. 議題2「令和7年度の地域福祉計画の進捗評価について」

(事務局より資料の評価方法について説明)

<専門分科会長>

- ・この評価方法について、事務局といろいろ議論させていただいている。「アウトカム評価」については、社会福祉や地域福祉の事業評価では、相談件数が何件あった等の数値を出していくことは重要ではあるが、そこにプラスしてアウトカム、どういう成果があったのか、相談の内容はどういうことだったのかも加味した評価を、これからは行っていく必要があるという趣旨で加えている。その上で、総合評価をし、「評価」欄の「1・2・3」という番号にも、そういう内容が加味されていると理解してほしい。
- ・その辺のところも評価の中に含めるようにして、職員が働きやすい、そしてその働いたことが評価されるような仕組みを出していかないと、本当に福祉の現場のなり手が少なくなっている。教育の方も大変だと思うが、そういうところも評価できるような仕組みを作り、若い人たちがこういう職に就きたいと思えるような評価の仕方にしていきたい。

(事務局より、基本目標1について説明)

<委員>

- ・No.1「いきいきフェスタの開催」について、実施方法の見直しを行うことは良いと思う。他の委員が言っていたように「障害者の方のイベント」となると、何か障害の方たちだけが集まるみたいなイメージにもなってしまう。そういうことではなく、できれば普通の市民の皆さんが参加するイベントのところに、障害の方とかも当たり前に参加ができるような環境を整えていただきたい。
- ・パブリックコメントの「番号7」にもあったが、例えば、手話の必要な方だとかは行っても

参加できないのではないかと、なかなか参加しづらいことがあると思う。あらかじめ当たり前のように手話通訳の方がいるなどの基礎的な環境整備ができていると、障害のある方も参加しやすいと思う。障害のある方を啓発するというのも、もちろん必要かとは思いますが、普段の取り組みの中で、ぜひ参加しやすいような取り組みというのも考えてほしい。

<専門分科会長>

- ・参考にさせていただく。

<委員>

- ・今のご意見で、私も個人的に高齢者とか障害者も含めて、どうやったらみんなが参加できるのかをいつも考えてはいる。
- ・どうしても高齢者や障害者向けというのは、その人たちを取り込みたいため、その人たち向けの案内になってしまう。それはそれでいいと思うが、そこにあえて役割・係として、別の世代の人を最初に配置しておく、逆に一般の人たち向けのスポーツイベントとしているが、入りにくいようであれば、あえて係として最初から高齢者の人や障害者の人をお願いするなど、実際に、地域でこども見守り隊など、あえて役割をお願いしている地域もあると思う。うまく自然にいて、というところを市民の人に見られるような何か仕組みがあるといい。

<専門分科会長>

- ・そういう取り組みなんかも、評価の1つの指標になってくればいいと思う。

<委員>

- ・評価の点数が高いもので、例えば No. 8 「ボランティア情報の集約と発信の充実」について、LINE で講座の案内とあり、ボランティアの LINE 「ぼらめ〜と」に自分も個人的に入っているが、LINE ができてから、すごく情報が手に入りやすくなり、敷居も低くなった気がする。
- ・今 AI とかにどんどん頼るようになってきているが、皆さんに届けるこういうツールは、確実な情報を、確実な情報元であるところが出しているということで、皆さん信頼もできるようになるし、例えば高齢者、障害者、こどもはもちろん、IT とかに慣れていくというのも時代であるため、うまく浸透して広げていけるともっと繋がりやすくなるのと考えている。

<委員>

- ・1つのきっかけはコロナであったと思う。皆さんに情報をどう伝えるかで、やはり発信元が信頼できるかは非常に重要である。例えば、バラバラにきた情報を皆さんが登録していくのも大変だし、いろんな情報を発信元となる市がみなさんから情報を集めていただくとか、社協が情報を集めていくとか、情報を精査してにはなりますが、そうやってまとめていくこともありうるのかなという気はする。

<委員>

- ・No.4 「障害者理解啓発事業」は、こどものうちから、しっかりと理解していただけるとよい。保育園の先生や学校の先生自体がまずはそういったところを知っていただき、お子さんにち

ちゃんと教えることができるように前回の社会福祉審議会でもお伝えしたが、お願いしたい。

- ・一方で、企業の方も令和6年4月から合理的配慮が義務化になっており、この啓発事業の研修会の中でも企業の参加が全然なかったと聞いている。企業がどうやったら参加しやすいのかともしっかりと考えて実施をしていただく必要があると思う。障害福祉課だけでなく、うまく他の課とも連携しながらやっていただけるといい。

<専門分科会長>

- ・地域に貢献している企業がやっぱり業績も上げていくような時代になってきている。そういう点で、この地域福祉と地域の企業が一緒に活動できるようなことを活発にしていけば、企業の方の合理的配慮というのでも進んでいくと思う。

<委員>

- ・企業サイドとして、企業に対する啓発などは社労士が企業に教えてくれることが多い。こういう障害者サービスとかの話もそちらと連携していくと企業には受け入れやすいかと思う。

(事務局より基本目標2について説明)

<委員>

- ・昨年度、南海トラフ地震臨時情報がでるなど、またいつどうなるかわからないと皆さんおそろく不安を大きく持っていると思う。市もいろいろと啓発しているが、自分を守るということがやっぱりあまり浸透していないと感じる。もう少し啓発を強くして、市民に、自助互助をまず基本に、公助ではなく、せめて共助だとアピールしていく必要があると思う。
- ・自治会の防災会も地域によってすごく差があるみたいである。共助というのは、やっぱり自治会さんが中心に動いていただかないといけないと思うため、自治会にお願いするなど、力を入れていただきたい。

<事務局>

- ・防災の関係では、ここ数年かけて、全校区で防災訓練を実施し、まずはきっかけづくりをしている。ただ毎年度やっても、同じ方が参加するような形になるため、今は保育園幼稚園から小学校中学校の若年層に対する防災教育に力を入れている。時間はかかるかもしれないが、幅広い年代層に防災啓発を進めていきたい。ぜひ今日参加の委員の皆様方にも、ご協力いただきたい。

<委員>

- ・福祉政策課の避難行動要支援者台帳登録の方も、自分たちも呼びかけてはいるが、我が事ではなく、私は関係ないという感じの返事が多い。その辺も何とかしたいと私たちも考えてはいる。何かあったときには、誰も来てくれないといっても、「私は死んでもいいからほっといて」と言われるとしょうがない。

<委員>

- ・避難行動要支援者台帳について、障害は障害の分野で、高齢の場合は長寿介護課で、あと難病などの関係は保健所で、それぞれの課で分かれて実施をしており、一緒になっていないと感じる。一本化してもらい、その中で、障害の方はこういった取り組みをしてください、というような取り組みをした方が効果的に進むと思う。ぜひこのあたりも縦割りでただ実施するのではなく、例えば、避難行動要支援者台帳でいったら福祉政策課が主体だと思うので、福祉政策課からしっかりと発信をしてもらえるとよいと思い、お願いしたい。

<専門分科会長>

- ・これも多機関協働事業の1つの柱になるため、反映させていきたい。

<委員>

- ・自治会で、今年防災で消防団を呼んで講座とかを実施した。やはり大人ばかりでなく、こどもも参加することは、とてもいいことだと思っている。小学生で、けがした時などの対応を消防団員の人に説明してもらったことは、いいことだと思う。もう少し小学校とか中学校の子供たちみんなにやらせるような防災訓練も必要ではないかと思う。

<委員>

- ・防災でいうと、非常に自分の学校は助かっている。地域の消防団の方が来て体験をさせていたり、合同で地域とやっており、自分が子供に期待するのは助けてもらうではなく、高学年だともう地域の役に立つぐらいの人間になろうということで取り組んでいる。これは、徐々にだと思つたため、学校のマインドとしてはそこに関わっていききたいと思う。

<委員>

- ・やはり大人ばかりが多いが、今回は小学生も体験してくれて、いい講座だという印象を受けた。小学校中学校の児童生徒を囲んで、防災の方を実施してもらいたい。

<委員>

- ・防災の話で、田原では、来年度、引き渡し訓練を地元の小学校中学校と一緒にやろうと話をしている。小学校から提案をいただき、同じ時間に同じように訓練することで、より実際の訓練ができる。しかし、豊橋だと1園と1校の関係だけではないため、なかなか難しい。全市でやるなど、こちらで企画できないところではあるが、そういう訓練や動きなどの確認ができると有効だと思った。

<委員>

- ・No.49「ほいっぷネットワーク（電子@連絡帳）の利用者数」は重点項目になっており、本当に進めていただきたい。しかし、なかなか進まない理由として、ハード面や主治医と連携する際に、市外の先生のため、ネットワークに入れない・入っていないことにより、その病院指定の別のツールを使ってやりとりをすることがあると訪問看護の事業所から聞いている。別に連携が取ればいいため、絶対にほいっぷネットワークを使わないといけないわけでは

もちろんないが、せっかく良いものがあるので、ぜひ利用者の方を増やしていただきたい。

- ・No.71「成年後見制度利用支援事業」も、今、認知症高齢者や一人暮らしの方、老老、身内はいるが遠くに住んでいて、何かあったときに支援ができないという方がすごく増えてきている。事業所でも、例えば支払いの滞りや、家族が引き受けとなっても、家族と連絡がとれず、結局1人という方もいる。こういうための成年後見制度が、ぜひスムーズに進むようになっていくと良いため、引き続き、お願いしたい。お願いしても後見人が何カ月か経たないとかないという現状がある。

<専門分科会長>

- ・医療は進んでいるが、介護の世界もAIやロボットも入れていかないといけない。医療と介護のネットワークについて積極的に取り組んでいかないといけないと思う。介護に就く人も、どんどん減ってきてしまう。

<委員>

- ・介護職員が、自分が働きたいところを選ぶとき、こういうテクノロジーとかを取り入れていないところは魅力がなく、求人をかけても集まらないという現状がある。国の補助金も活用して取り入れることができるといい。大きい事業所はいいが、小さい事業所だと難しい状況がある。

<専門分科会長>

- ・小さい事業所は、どんどん廃業していつている。どんどん事業所が少なくなると日本の介護保険だけで本当に成り立っていかないと思う。小さな事業所でも成り立っていけるような仕組みを本気になって考えないと、介護は担い手のところから崩れていつてしまう。

<委員>

- ・今、外国人の方も増えて頼っている状態というのもよく聞く。

<委員>

- ・No.42「放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）」について、障害のある方の相談をしていると、障害があり、児童クラブに入りたいが、受け入れ側として見きれないということで断られてしまうことがあると聞く。
- ・障害の方で「放課後等デイサービス」という福祉サービスもあるが、それももういっぱいになかなか見つからないという話もある。お母さんの就労の保障も難しい状況になっていると感じる。今インクルーシブと言われているが、なかなか現実的には難しくなっていると思う。実際に放課後児童クラブのお話を聞くと、先生達もすごく大変だと聞いており、先生たちに対する手当など、そこの充実をしてあげないと、受けてくれと言っても、受ける側も大変という気がする。しっかりと考えていただきたい。例えば、保育園も先生が大変だとも聞いているため、見る先生側に対して、ちゃんと何か考えていただけると、もう少しインクルーシブみたいなのところも進んでいけると思う。ぜひこのあたりも考えていただきたい。

<委員>

- ・ No.44「私立幼稚園運営費補助金」について、幼稚園は私学助成で、こども園は市から給付をいただき運営しているが、いろいろ制度の違いの中で、こども園は、保育園と同じような情報が入ってくるが、特に幼稚園は福祉の情報や視点が少ないと感じる。
- ・ 昔は、学校ということで、自分ところの教育を保護者との中で、いかにいいものにしていくかという視点が強かったが、だんだん共働きも増えてくるなど、やはりそれがまちの市の子育てとかインフラになり、みんなで育てていこうという中で、幼稚園が置いていかれていると正直思う。私たちもそれを何とかしなくては思っている。何がどういうふうに必要なかを、こちらからも言わなきゃいけないと思っている。
具体的な話ではありませんが、どこかで、もう少し仲間に入れてもらえるようなことがあればお願いしたいと考えている。
- ・ 今、幼稚園はどんどん園児が減っており、園児が減るということはそれだけ経営が苦しくなっている。保護者に選ばれなきゃならず、より質の高い教育を提供しているが、それぞれの地域にあることもとても大事であり、私たちも思いとしては、防災のときなど、この地域で防災の拠点になんとかならないかなという話をしていたりする。こちらとしても、どのようなことができるかということも考えていきたいため、今後とも、さらなるご支援だとか、ご協力いただけるとありがたい。

<委員>

- ・ 先ほどの放課後児童クラブの話で、今年、受け入れる児童の数が増えて、場所がないため、どうしたらいいかと市の方から自治会に相談があった。学校から歩いて行けるところがよいが、小学校は断られてしまったが、中学校は受けてくれた。
- ・ 小学校の人数は増えてはいないが、共働きでみられないというのは増えており、市役所の職員も、全員やっぱり受けたいという気持ちがあっても、場所がないとなってしまうため、まず場所について考えて欲しい。

<専門分科会長>

- ・ これも多機関協働事業で、子どもたちの居場所づくりも充実するように、いろいろ考えていけるとよい。中学校の方でもそういうのを引き受けていただけるようになるのか。

<委員>

- ・ 学校にもよると思うが、教室は空いているところがある。しかし、これまでなかった通級指導教室など、新しくできた教室がたくさんあり、一見空いてそうで、空いてない学校もあるというのが実情だとは思う。

<委員>

- ・ 遠くだと歩いて事故の恐れもあるので、小学校から歩いて5分ほどで行けるところがよく、やはり学校とかが使えるとよいと思う。学校側に断られたら、どうしたらよいか困る。

<委員>

- ・自分もできれば学校が使えるといいなと思う。ただ、各校の事情とか、その教室の使い方によるかもしれない。

<委員>

- ・放課後児童クラブの話について、保育園では、もちろん共働きの方のお子さんを預かっています。卒園児が小学校に上がるにあたり、放課後児童クラブの受け入れ先が本当になく、仕事を辞めざるを得ないという「小一の壁」がある。子どもにとっても「小一の壁」はあるが、親御さんにとっても、仕事か家庭か選択を迫られるため、子どもの受け入れ先である放課後児童クラブが充実していただけるとすごくありがたい。
- ・もう1つ、支援の必要なお子さんがものすごく増えている。支援の必要というと、障害児だけでなく、個人的な関わりをものすごく必要としているお子さんが多い。放課後児童クラブの方の受け入れ先もそういったことが配慮できる人員や人数、経験の豊富な方が受け入れ先にいることが、安心して卒園させていけるというところに繋がると思う。

<専門分科会長>

- ・豊橋市は、子育て支援のランキングが非常に高く、充実している。子どもの居場所づくりは大切だと思うため、いろんな意見が出たので、反映させていきたいと思う。

(事務局より基本目標3について説明)

<委員>

- ・保育園では、若いお母さんやメンタル的にうつ症状などを持ったお母さん、難病を抱えたお母さんなどがいるため、そのお母さんたちを支えるためには、こどもの成長が、やはりまず1つ中心にある。そのためには、お母さん、お父さん、家庭を支えていくのも保育園の役割になっている。そういったお母さんたちに対して、縦割りがあため、行政の中での関係機関が協力し合って繋がりを持ってやっていただけるとありがたい。それぞれの機関が連携し合って協力し合っていただけると保育園の負担も少なくなると思うため、ぜひお願いしたい。

<専門分科会長>

- ・これは、行政がよく言われる「たらい回し」を解消するため、もうそろそろ総合的な窓口を作って、各機関のところに連絡がいくような仕組みが必要だと思う。

<委員>

- ・No.87「地域ケア会議」について、今後の方向性に書いてあるように、「自立支援型の地域ケア会議」が豊橋市はすごく少なかった印象がある。他の市町村は、高齢者がどういった外に出ていけるかという「自立支援型地域ケア会議」を、もっと回数を多くやっている印象がある。今後の方向性になっているが、ぜひそういったものも他の市町村と同じように多く取

り入れていっていただきたい。

4. 議題3 令和7年度の生活困窮の地域づくり事業出前講座の第三者評価について

(事務局より資料3について説明)

<委員>

- ・この出前講座は実際どういった内容になるか。一般市民を対象とあるが、実際には、支援する側に対して実施をしているというイメージかと思うが。

<事務局>

- ・実施した内容は、福祉の世界で、複雑化・複合化した課題が増えており、8050だとか、制度の狭間、相談先がわからない課題などが増えており、相談が入っていることや、地縁や血縁など、地域の繋がりが弱まっていることを改めてお知らせしている。今回は、更生保護関係の団体だったため、再犯者の今の傾向だとか、新しく刑法が改正されたということで、そのあたりの部分についても説明しながら、今後も支援者の方たちの活動に生かせるような内容で実施している。

<委員>

- ・そういったことなら、障害の相談員や事業所向けにも実施していただけると、対象にもなる気がする。ぜひそういうところにも声掛けいただけるとありがたい。

<専門分科会長>

- ・おっしゃる通り。
- ・生活困窮者の方の支援には、就労支援、居住の支援、就学の支援など、いくつかの支援があるため、それをやはり専門職の人達で進めていくということで、地域住民の理解や大家の理解を得ることについても、出前講座の内容として、もう取り組んでいるとは思いますが、よりそのあたりを充実していただければよいと思う。
- ・事務局につきましては、各委員さんからの意見を踏まえまして、今年度の実施状況をしっかりと検証した上で、次年度以降の日程、事業のあり方について検討をしていただきたい。

5. 閉会